

2 多様な主体の参画のための体制整備の進展

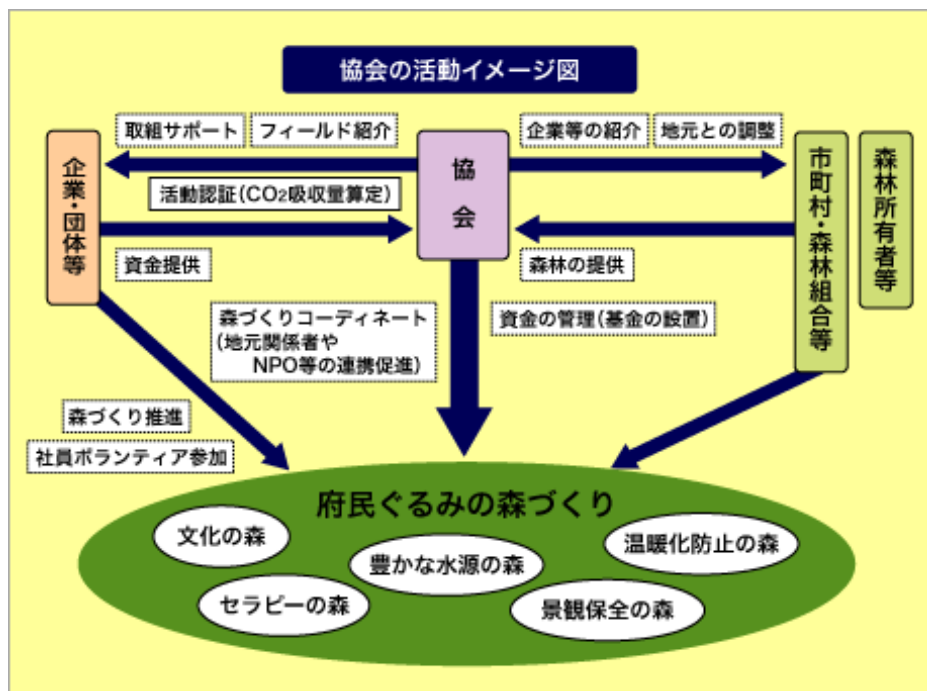
④都市住民・企業等との協働のための仕組みづくりの例

京都：企業や市民ボランティアと活動フィールドを結ぶモデルフォレスト協会の設立

京都府では、林業関係者だけではなく府民、企業、大学、市民団体などとともに府民ぐるみで森づくりを進めるモデルフォレスト運動を進めており、平成 17 年には府民ぐるみでの森林づくりを支える仕組みとして「京都府豊かな緑を守る条例」が制定されるとともに、平成 18 年には運動の推進母体となる「社団法人モデルフォレスト協会」が設立された。

同協会は、企業や団体に森づくりへの参加を呼びかけ、フィールドの斡旋や技術指導、活動認証（CO2 吸収量の算定）などを行っている。これまで、3 企業が 3 地域（186ha）で活動を開始しているほか、森づくり基金の造成も行われている。

大江地区では同協会の斡旋により 2 つの企業と地元自治会が協定を締結し、つつじの森の再生や針葉樹林の間伐、遊歩道整備等に取り組んでいる。



社団法人モデルフォレスト協会の活動イメージ



毛原地区での企業（パナソニック・ライティング、エスベック）と地元自治会の協定締結式の様子